

世界が恋した二人の女優



2 パーフェクトなボディ
バレリーナを目指していただけあって、スタイルの良さは芸術品レベル。バスト99cm、ウエスト49cm (!)、ヒップ89cmというナイスボディに男性は驚きした

Brigitte Bardot
ブリジット・バルドー

4 裸足が好き!
裸足を好み、レストランへも裸足で赴くことがあったというベベ。靴は、元バレリーナだけあってバレエシューズを愛用。今人気のレベットのバレエシューズもベベ発だとか

1 ポイントメイクの女王
しっかりと引いたアイライン、つけまつげ+マスカラと目元にポイントを置いたメイクはとて現代。ファンデーションはごく薄めにし、ナチュラルに仕上げるのがベベ流。ソバカスもチャームポイントに

3 美尻を生かしたパンツスタイル
ボーイッシュな着こなしに定評があるベベ。パンツスタイルもお手のもので、サブリーナパンツにヒップボーン、パンタロンと、多彩なパンツスタイルで当時のブームをリードした



©1956 - TF1 INTERNATIONAL
「素直な悪女 HDニューマスター版」
2940円/IMAGICA TV

ベベの初代夫ロジェ・バディエが監督し、彼女をスターダムに押し上げた一作。ベベ演じる孤児ジュリエットは、ある夫婦に引き取られるが…



©1983-STUDIOCANAL, IMAGE/COMPAGNIA CINEMATOGRAFICA CHAMPION, SPALONCI ALL RIGHTS RESERVED.

「ユニバーサル映画100周年 企画シネマコレクション 軽蔑」
1980円/ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

ヌーヴェル・ヴァーグの代表格、鬼オジャン・リュック・ゴダール監督作。南イタリアを舞台に、真実の愛を求めめる男女と、愛の終わりを描く



©1957 FILMSOR - LES FILMS ARIANE - CINTEL - PRETORIA

「殿方ご免遊ばせ HDニューマスター版」2940円/IMAGICA TV

ベベのキュートな魅力が全開のコメディ。浮気者の夫をこらしめようと、シャルル大公とアバンチュールを決行!? セレブファッションも見もの



©Ciné-Tamaris photo by Agnès Varda ©Agnès Varda
「シェルブールの雨傘 デジタルリマスター版(2枚組)」4935円/ハビネット

全編のセリフにメロディがつけられたミュージカル作品の金字塔。ドヌーヴは雨傘屋の娘に扮し、二人の男性の間で揺れる女心をかれんに演じる



©Investing Establishment/Piza Production International/Comstock Group

「昼顔」
3990円/マーメイドフィルム

家庭的な若妻が、昼顔、という名で娼婦として働き始め…。良妻というイメージのドヌーヴだからこそ、いっそう官能的。今なお評価が高い名作



©Mandarin Cinema 2010

「しあわせの雨傘」
4935円/ハビネット

フランソワ・オゾン監督作。退屈な毎日を送るブルジョワ妻が、夫の代わりに会社の立て直しに挑み…。ジャージー姿でさえ美しいドヌーヴは必見



Catherine Deneuve
カトリーヌ・ドヌーヴ

2 いつも完璧メイク
女優である以上、素顔で人前に出ることをよしとしないドヌーヴ。毎朝時間をかけてヘアとメイクを整えるのだとか。だからといって決して厚化粧にはみえない透明感がある

3 イヴ・サンローランのミューズ
「昼顔」の衣装をイヴ・サンローランが提供したのをきっかけに、友情を育んだ二人。ファッションショーのフロントローを飾ったこともある。黒のドレスをこよなく愛した

4 ゴージャスな小物遣い
大ぶりのジュエリーやファーをあしらった小物やコートなど、女優にふさわしいゴージャスなアイテムが好み。特別な場だけでなく、デイリーにも愛用しているそう

グッド・ガールを体現するビューティクween

1943年フランス・パリ生まれ。両親共に役者という芸能一家で育つ。64年「シェルブールの雨傘」で一躍スターとなり、以降、現在まで多くの作品に出演。ラース・フォン・トリアー監督の「ダンサー・イン・ザ・ダーク」ではほかほかり姿で登場するなど、女優としてさまざまな役柄に常に挑戦している

むしろ魅力になったんです」
スターとして駆け抜けた20年を経て引退し、動物の保護活動に情熱を注いだベベ。引き際の潔さ、さらびやかなことを好まなかったという生き方も実にカッコいい。
ベベとは対照的な「グッド・ガール」の象徴が、今も第一線で活躍するカトリーヌ・ドヌーヴ。世界一の美女」と称される正統派美人で、イヴ・サンローランをはじめフレデリック・モルド界との親交も深い。
「彼女はデビューから現在まで、普通の女性らしさ」をさまざまな形で演じてきた。ロジェ・バディエ、ロマン・ポランスキー、フランソワ・トリュフォーら多くの監督の作品に出演し、ヘアメイクも常に完璧で、どんな役でもドヌーヴはドヌーヴ。その姿勢には徹底したプロ意識を感じます。最近では「自分が役に立つなら」とフランソワ・オゾンら次代の監督のオファーにも積極的です」
私生活では二人の子を持つ母親だが、二十代で結婚と離婚を経験してからは独身を貫く。結婚という形にこだわらないフランス人らしいが、「自分がスターである以上、誰のものにもならない」という意識があるのかもしれないね」と高野さんは言う。ともに一時代を築いたスターでありながら、既存の価値観ではなく、自分の信念に基づいて生きる二人。「女性が見て引きつけられる女優は伝説化する」という高野さんの言葉に、思わず強くなぞうた。

自然体で駆け抜けた気ままな妖精

1934年フランス・パリ生まれ。56年「素直な悪女」の大ヒットで一躍スターに。B.B.というイニシャルから、フランス語で「赤ん坊」を意味するベベ (BeBe) の愛称で親しまれた。73年に映画界から引退すると、かねてから心を砕いていた動物愛護活動に専心。赤々々に半生を語った自伝「イニシャルはBB」は世界的ベストセラーに

「ぱちりとした目鼻立ちにプロンドの髪。華やかなビジュアルだけでうっとりさせられる、フランスの女優たち。とはいえ私たちは、容姿の美しさだけに引かれているわけではない気がする。50年代から60年代にかけて、世界的なアイコンとなる女優が誕生したフランス。シネマ・エッセイストの高野てるみさんいわく、彼女たちの魅力はハリウッド女優とは違う際立つ個性にあるそう。生き方やファッション、すべてにおいて自分らしさを大切にしている。勢が、その世界観を形作っている。
「外見にお金をかけるより、自分の個性を生かすことが美しさの秘訣だとフランス女性は知っています。誰に教わることもなく、みんな母親の姿を見て自然とそれを覚えるのです」
高野さんが「個性という言葉は彼女のためにある」と評するのが、小悪魔的な魅力で60年代に活躍したブリジット・バルドー、通称「ベベ」。出世作の「素直な悪女」など出演作の多くで美しい体を惜しみなく披露し、男性の視線を釘付けに。一方女性からは、パンタロンやボーダー柄といった当時の流行を取り入れたファッションで、おしゃれリーダーとしてカリスマ的な人気を集めた。「プライベートでは恋愛スキャンダルも多く、男なんかにつかまらないう」という奔放な女性の象徴だったベベ。でも、実は彼女はブルジョワ階級出身のお嬢様。だから自由に振る舞っても、決して下品にならず、